

# みみの話 【解答・解説】

## ●はじめに

人間の他にも様々な動物たちが生きていること、みんなが同じ地球上の仲間であり、お互いに関わり合って生きることを実感するには、まず個体レベルでの動物の理解が必要です。そこで第1ステップとして動物に共通する様々な形態を取り上げてみました。今回のテーマは「耳」です。野毛山動物園で動物を観察される際に、飼育係を見かけましたらお気軽に声をおかけください。動物たちのとっておきの話が聞けるかもしれません。

## ●ねらい

動物にお共通する器官「耳」。しかしその形態は多様であり、動物によっては他に見られない特徴を持ったものもあります。今回は、耳の「音を聞く」という一つの目的に対して、動物によって異なる特徴を持つことに気づいていただくことをねらいとしています。

## ① グレビーシマウマ

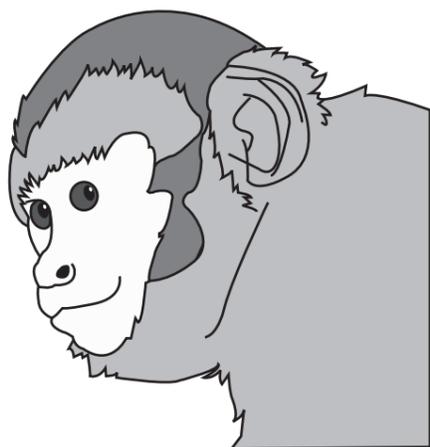


分類：哺乳綱奇蹄目ウマ科  
分布：エチオピア南部からケニア北部  
※絶滅が危惧されている

ウマやロバの仲間には耳を動かすための筋肉がたくさんあり、首を動かさなくても両耳を別々に動かして音の発信源を探することができます。

また精神状態が耳の動きにも表れ、リラックスしているときは、まっすぐ持ち上げています。また、耳を前方に押しやっているときは、前方の何かに注意を払っており、警戒したり不機嫌なときは耳を後ろに倒し尾、目をむいています。このような耳の動きは、イヌやネコにもみられます。

## ② フサオマキザル



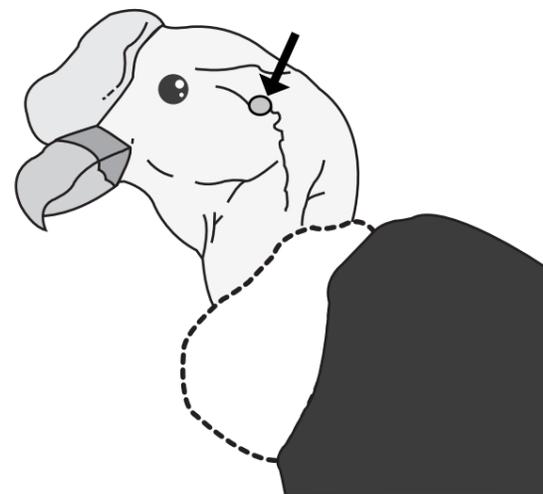
分類：哺乳綱霊長目オマキザル科  
分布：南アメリカの熱帯雨林に分布  
食性：果実と木の葉

霊長類の耳介は似た形のものが多く、聴くという機能はどのサル仲間もあまり変わらないようです。

耳介は他の動物に比べ比較的小さく、ほとんど動かすことができないのですが、聴力は良く、幅広い音を聞き分けられます。

原猿類（原始的な形態を持つサル）では、大きくてよく動く耳を持つものもいます。

## ③ コンドル

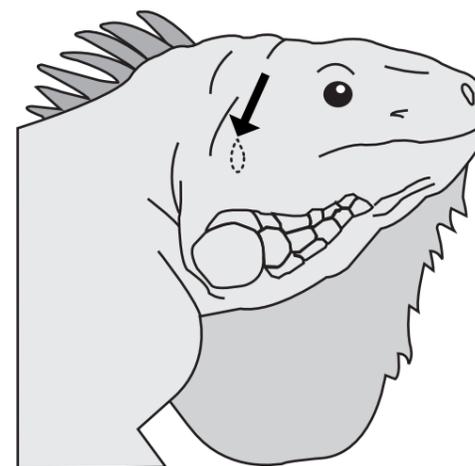


分類：鳥綱タカ目コンドル科  
分布：南アメリカ、アンデス山脈など  
大型動物の死体に首を突っ込み死肉を食べるため、汚れて病気などにならないよう頭部の羽毛を欠いている

コンドルやハゲワシなど死んだ動物の肉を主食とする鳥の仲間は嗅覚に頼って食物（死肉）を探し当てる能力が発達しているため、聴覚はそれほど発達していません。

特に発達した聴覚を持つのはフクロウの仲間です。フクロウの仲間は、耳孔が大きく左右で高さが異なっていることで音を立体的に捕らえることができます。そのため暗闇で相手の姿が見えなくても、音源（獲物）の位置を正確に聞き分けることができます。

## ④ グリーンイグアナ



分類：爬虫綱有鱗目イグアナ科  
分布：メキシコ・パラグアイなどの熱帯  
食性：ほぼ植物食

爬虫類の耳の構造は十分には発達しておらず、耳介はありません。哺乳類の鼓膜は耳孔の奥にあります。爬虫類の多くは体表面に露出しています。

トカゲの仲間とヘビの仲間は、足の有無ではなく、まぶたの有無や耳孔の有無で見分けられます。トカゲには、まぶたや耳孔がありますが、ヘビにはありません。ヘビは空気を伝わる音を皮膚で受けとめ、筋肉、下あごに接する耳骨へと伝え、音を感じることができます。

このワークシートに対するご感想やご意見、またワークシート作りへのアドバイスを  
お寄せください。今後の参考とさせていただきます。どんな事でも結構です。先生方の  
声をお待ちしています。

横浜市立野毛山動物園 〒220-0032 横浜市西区老松町63-10  
TEL045-231-1307 FAX045-231-3842  
<http://www.nogeyama-zoo.org/>  
教育普及担当